

「差額ベッド料」は不要です

「謝礼」や「付け届け」は不要です

人権を守る医療・介護をめざします

保健・医療・福祉のネットワークで対応します

岡山医療生協の4つのこころ

かりゆし

発行日 2012年4月1日
 発行者 岡山東中央病院
 岡山医療生活協同組合
 岡山市中区倉田677-1
 TEL 086-276-3711
 FAX 086-277-5556



岡山東中央病院の 離床への高いこだわり

れもん棟
離床で生まれる
いきいき笑顔



れもん棟では、胃腸を造設して栄養管理をしている患者さまが10〜12名いらつしやいます。その中で、経口摂取と併用している方は4名です。以前の病院では、お昼にミキサー食を介助で食べておられた患者さまが、現在では1日3食、自力でご飯（全粥・みじんとろみかけ食など）を食べられるまでになりました。

また、パーキンソン病のため自力での移乗は困難で、起立性低血圧や尿路感染症（尿道留置カテーテル）を併発していた患者さまでも、ベッド



を背上げて起きあがり、血圧をチェックした後、リクライニング車椅子へと移乗し食事を摂るようになりました。職員が手を添えて食事動作を援助すること、自分で食べることの獲得へと結びつけることができたのです。

毎日食堂へ出て食事することは、生活リズムを整える効果もあります。また、自分で食べることが、食事の「おいしさ」

を感じさせ、いきいきと生活する基盤を作りまします。起立性低血圧は寝たきりの生活がもたらした負の遺



さくら棟
心のこもった
離床の継続へ…

さくら棟では、ほぼ毎日、寝たきり状態の患者

産（廃用症候群）とも言われています。当院では、多くの患者さまが離床の機会を得ています。

今後とも当院の特徴である「離床」や「リハビリテーション」によって、よりいきいきと自分らしさを取り戻せる患者さまが増えることを確信し、援助していききたいと考えています。

3月12日（月）は毎月恒例「ボランティア喫茶」の日。外は最高気温が5度、12時には雪が降ったあの日。暖かい食堂で、甘くなりすぎないように工夫された「ぼた餅」を食べて過ごしました。

今月の ボランティア喫茶

ぼた餅に舌鼓



また、患者さまの様子を顔マークで記載し職員間で確認し、情報を共有するなど、患者さまの気持ちに沿った離床を継続していきます。



訪問終了後には、組合員さん手作りのシフォンケーキとハニージンジャーを美味しくいただきました。交流を深め

よっしゃいくデー(地域訪問) 健康づくりは仲間とともに



3月10日（土）午後、「よっしゃいくデー」(地域訪問)に組合員と職員

41名で取り組みました。地域に出て組合員を増やす事はもちろん、大腸がん検診のお誘いや、各種署名も持参して、医療生協の宣伝を行いました。事前準備期間も含め20名の組合員加入があり、大いに盛り上がりました。